

令和元年度北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：帯広地区
- 2 事例報告学校名：帯広市立大空小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 川上 裕明
- 4 キーワード：地域との連携・協働



1 はじめに

帯広市立大空小学校は、昭和45年に南帯広住宅団地開発に伴い、市内南西部の大空団地内に開設された学校である。

市街地から6kmほど離れた大空団地は、緑豊かな公園や多くの緑地が広がり、小学校の校門をエゾリスが駆け上がる自然豊かな場所である。近郊には「帯広の森」や運動公園、JICA北海道の施設などがあり、学習環境にも大変恵まれている地域である。



学校に対する地域住民の協力は厚く、「おおぞらっ子クラブ（放課後・土曜日の居場所づくり）」、「にじのもり（図書ボランティア）」、「登校時の見守りボランティア」他、多くの方々の支援を受け、子どもたちはのびのびと健やかに学んでいる。

本レポートでは、その中から、「帯広の森・はぐく一む」と連携して行っている自然体験学習について報告する。

2 人と自然の共生を体感する「はぐく一む」

「帯広の森」は面積406.5ha、幅約550m、延長約11kmにおよぶ、帯広市民の手によって作られた森林地帯である。この「帯広の森」を中心とした緑のベルトが十勝川から札内川を結び、帯広の市街地を包み込んでいる。「帯広の森」の樹木は、30年間にわたって行われた市民植樹祭などを通じ、延べ15万人以上の市民の手により植えられたものである。



この広大な「帯広の森」を育て楽しむための活動の場として、また自然に囲まれた憩いの場として、「帯広の森・はぐく一む」が平成22年に開設された。

3 「はぐく一む」と大空小学校

大空小学校から「はぐく一む」までは、児童の徒歩でおよそ15分。「はぐく一む」が開設されてから毎年続けて体験活動を行っており、令和元年度でちょうど10年目を迎えた。今年度は2～6年生の全学級が「はぐく一む」を訪問、体験的な学習を行っている。

活動の主な内容は、次のとおりである。

- 2年生 森のおそうじ
～枝あつめと焚き火パン
- 3年生 森の観察
～木の葉と昆虫採集
- 4年生 外来植物の除去、花びら染め
- 5年生 下枝切り、焚き火パン
- 6年生 間伐と間伐材コースター



2年生は生活科、3～6年生は理科と総合的な学習の時間の指導計画に位置付け、それぞれ前年度の学習を踏まえた学習内容を設定している。低学年の森林に親しむ活動から始まり、学年が進むにつれて「帯広の森の成り立ち」「森林と樹木の機能」等の説明を受けながら、森林を健康に維持する体験活動を通じ学んでいる。児童の人数に応じてボランティアの応援を

受けながら、時季によってはスズメバチやマダニといった有害生物への対応など、自然の中の安全教育も実践的に行うことができる。

また、今年度4年生で行った草木染めでは、アワダチソウの花弁を集めてバンダナを黄色く染め、4年生児童全員がそのバンダナを身に付けて学習発表会に臨むこともできた。



4 これからの森と子どもたち

森林の樹木には、公害抑制、都市災害の防止、微気象・環境の緩和、生物生息環境の保全といった機能が期待されている。

この「帯広の森」に触れて育った子どもたちが、これからも森林や自然に親しみ自然と共生する人として生活していけるよう、大空小学校での学習活動をさらに充実させていきたい。

